

## フェリックス・メンデルスゾーン (Felix Mendelssohn, 1809-1847)

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家で、クラシック音楽の重要な人物の一人です。彼の生涯、作品、特にピアノ曲、人間関係、思考について詳しく見ていきます。

### 生涯

メンデルスゾーンは、1809年2月3日にハンブルクの裕福なユダヤ人家庭に生まれました。父は銀行家のアブラハム・メンデルスゾーン、祖父は有名な哲学者モーゼス・メンデルスゾーンです。フェリックスは非常に早熟な才能を示し、幼少期から音楽の教育を受け、9歳で公開演奏を行いました。彼の家族は文化的に豊かで、若いメンデルスゾーンは早くからヨーロッパの文化界で名声を得ました。

メンデルスゾーンの家族は、彼が7歳の時にキリスト教に改宗し、メンデルスゾーン＝バルトルディという姓を名乗るようになりました。これは彼の生涯と音楽に深い影響を与えました。彼は若い頃から国際的に有名になり、作曲家、指揮者、ピアニスト、そして教育者として幅広く活動しました。

彼の健康は晩年に悪化し、38歳の若さで1847年11月4日にライブツヒで亡くなりました。

### 主要な作品

メンデルスゾーンの作品は多岐にわたります。交響曲、協奏曲、室内楽、オペラ、合唱曲、そしてピアノ曲など、彼の作品は洗練された構造と抒情性を特徴としています。

#### 1. 交響曲

- **交響曲第3番「スコットランド」**(Op.56)
  - メンデルスゾーンがスコットランドを訪れた際に着想を得た作品で、ロマン主義的な情景描写とドラマチックな展開が特徴です。
- **交響曲第4番「イタリア」**(Op.90)
  - イタリア旅行中に書かれた明るく活発な交響曲。特に第1楽章の軽やかなリズムが有名です。

## 2. オラトリオ

- 「エリヤ」(Op.70)
  - メンデルスゾーンの宗教的作品の中で最も有名なものの一つで、バロック音楽、特にバッハからの影響を受けた構造を持っています。

## 3. 管弦楽作品

- 序曲「フィンガルの洞窟」(Op.26)
  - メンデルスゾーンがスコットランドのヘブリディーズ諸島を訪れた際にインスピレーションを得て作曲した管弦楽作品。

## ピアノ作品

メンデルスゾーンのピアノ作品は非常に多く、特にその技術的な要求の高さと抒情性が特徴です。

### 1. 無言歌集(Lieder ohne Worte)

メンデルスゾーンのピアノ作品の中で最も有名なのが「無言歌集」です。彼は1829年から1845年にかけて8巻にわたり、48曲の「無言歌」を作曲しました。これらの作品は、歌曲のように感情を表現しながらも、歌詞を持たないピアノ独奏曲です。各曲は、メロディックで表現力に富み、ピアノの可能性を引き出しています。曲それぞれが短いながらも、感情豊かで、メロディーと和声が歌うように進行することから「無言歌」と名付けられました。

### 第1巻 Op.19b (1832年出版)

#### 1. 甘い思い出(Andante con moto)

この曲は軽やかで、穏やかに始まりますが、進むにつれて豊かに広がるような感覚が特徴です。心の中に浮かぶ甘い思い出をピアノで描写したような優雅な作品です。

## 2. 優雅な旋律 (Andante espressivo)

この作品は穏やかでゆっくりとしたテンポで進み、豊かな感情を表現しています。全体的に抒情的で、深い感情をピアノで繊細に表現しています。

## 3. 狩の歌 (Hunting Song)

軽快なリズムと弾むようなメロディーが特徴で、狩りの活気やエネルギーを描いています。スケルツォ風の要素もあり、全体に明るく躍動的な性格を持っています。

## 4. 信頼 (Confidence)

この曲は穏やかで落ち着いた雰囲気を持ち、安心感や信頼感を表現していると言えます。静かな中に強さを持つ旋律が特徴です。

## 6. ヴェネツィアの舟歌 第1番 (Venetianisches Gondellied)

舟のゆったりしたリズムと、ヴェネツィアの運河を進むゴンドラを彷彿とさせる流れるようなメロディーが特徴です。非常に人気があり、後の無言歌にも「舟歌」のスタイルが繰り返し登場します。

## 第2巻 Op.30 (1834年出版)

### 1. すべてのことに平和を (Andante espressivo)

この曲は非常に平和的な雰囲気を持ち、柔らかく滑らかな旋律が印象的です。瞑想的で内省的な性格が感じられます。

### 3. 慰め (Consolation)

名前の通り、慰めに満ちた穏やかなメロディーが特徴です。優しい旋律が静かに流れ、リスナーに安心感を与えます。

## 6. ヴェネツィアの舟歌 第2番

第1巻の舟歌と同様に、流れるようなリズムがヴェネツィアのゴンドラを連想させますが、こちらはより抒情的で感情豊かです。

## 第3巻 Op.38 (1837年出版)

### 2. 民謡風の旋律 (Allegro non troppo)

軽快なリズムと明るいメロディーが特徴で、民謡的な素朴さを感じさせます。特にシンコペーションを多用したリズムが印象的です。

### 6. デュエット (Duetto)

この曲は2つの旋律が絡み合い、まるで二人が会話を交わしているような印象を与えます。優美で、メロディー同士が絡む様子が非常に美しく、メンデルスゾーンの作曲技術の高さを示しています。

## 第4巻 Op.53 (1841年出版)

### 2. 浮雲 (Allegro non troppo)

軽やかな雲が空に漂うような印象を持つ曲です。軽快なリズムと浮遊感のある旋律が特徴で、空の変わりゆく雲の様子を描写しています。

### 4. 楽しき思い出 (Andante tranquillo)

この曲は懐かしい思い出を振り返るような抒情的な作品です。穏やかで静かな旋律が、優しさと温かさを感じさせます。

### 6. 春の歌 (Frühlingslied)

非常に有名な無言歌で、春の明るさと喜びを感じさせる軽快なメロディーが特徴です。活発で躍動的な部分と、穏やかな部分が交互に現れ、春の訪れを描いています。

## 第 5 卷 Op.62 (1844 年出版)

### 1. 五月のそよ風 (Andante espressivo)

穏やかなそよ風のような柔らかいメロディーが特徴です。特にピアノシモでの繊細なタッチが求められ、抒情性が高い作品です。

### 6. ヴェネツィアの舟歌 第 3 番

これも舟歌の一つですが、やや落ち着いた雰囲気があり、哀愁を帯びた旋律が心に残ります。

## 第 6 卷 Op.67 (1845 年出版)

### 2. 失われた幻影 (Presto)

非常に軽快で、幻想的な旋律が特徴です。速いテンポの中で、明るさと儚さが交錯するような雰囲気を持っています。

### 4. タベの調べ (Moderato)

この曲は穏やかで落ち着いたメロディーが特徴で、夕暮れ時の静かな情景を感じさせます。抒情的な旋律が印象的です。

## 第 7 卷 Op.85 (1850 年出版)

## 1. ノスタルジア (Andante espressivo)

懐かしさと切なさが漂う曲で、感傷的なメロディーが穏やかに進みます。内省的な雰囲気があり、深い感情を感じさせる作品です。

## 第 8 巻 Op.102 (1868 年出版)

### 1. 風のささやき (Andante)

この曲は風が静かに吹く様子を描写したような旋律が特徴です。穏やかなリズムと流れるようなメロディーが、自然の一部である風を感じさせます。

### 2. 厳格なる変奏曲 Op.54

この作品は、バロック時代の形式に基づいて作られた変奏曲で、メンデルスゾーンの精緻な対位法の技術を示しています。

### 3. ロンド・カプリチオーソ Op.14

この作品は、初めは穏やかなメロディーで始まり、次第にエネルギッシュで華やかな展開を見せるロンド形式の作品です。

### 4. 3つの幻想曲 Op.16

メンデルスゾーンのロマン派的な感性が強く反映されたピアノ曲集で、技術的にも高度で、幻想的な雰囲気が漂います。

### 5. ピアノ協奏曲

- ピアノ協奏曲第 1 番 ㄱ短調 Op.25

- これは非常にエネルギッシュで華やかな作品で、ソリストに高い技術を要求します。
- ピアノ協奏曲第2番 二短調 Op.40
  - 第1番に比べて、より深い感情的な側面が表れた作品です。

## 人間関係

メンデルスゾーンは多くの重要な音楽家との交流を持っていました。特にロベルト・シューマン、フランツ・リスト、そしてフレデリック・ショパンとは親交が深く、互いに影響を与え合いました。彼はロマン派の中でも古典的な形式を尊重し、バッハやモーツァルトの音楽を重要視しました。

- ロベルト・シューマン: シューマンはメンデルスゾーンを非常に尊敬しており、彼の音楽の影響を強く受けました。
- フランツ・リスト: 技術的な面でリストからの影響が見られることもあり、二人はピアノ音楽の発展に貢献しました。

## 思想

メンデルスゾーンは、その生涯を通じて古典的な音楽形式を尊重しながらも、ロマン主義的な感情表現を追求しました。彼は古典的な調和と形式を重視し、特にバッハやモーツァルトを敬愛していました。宗教的な信仰も強く、その影響は「エリヤ」などの宗教的作品に反映されています。

彼の音楽は「抒情性」と「形式美」が融合しており、感情を豊かに表現しつつ、構造的な均整も保たれています。このことから、彼はしばしば「バッハの復興者」とも称され、特にバッハの「マタイ受難曲」の復活演奏を指揮したことは彼の大きな功績とされています。

## まとめ

フェリックス・メンデルスゾーンは、古典とロマン派をつなぐ重要な作曲家で、彼の作品は非常に多様で、抒情的で技術的にも高度なものが多いです。ピアノ作品では特に「無言歌集」が有名で、ロマン主義的な感情と古典的な形式が美しく融合しています。